

特別支援学級の現状と教員不足について

佐久間 順子



〔質問〕特別支援学級は児童8人に対し教員1人は困難という声があるが、所見を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕特別支援学級の学級編制基準を、特別支援学校に準じた6人以下に見直すこと、および自閉情緒障害学級基準の改善について、今後も県教育委員会および国に強く要望していく。

〔質問〕支援員の人数を増やしてほしいという声もあるが、どのような考えか伺う。

〔答弁〕〔学校管理課長〕各学校からの要望に対し、必要数を精査して予算化を求めていきたい。

〔質問〕第464回定例会で、

「県教育委員会や文部科学省に対し、教員確保について強く要望しているところ」と答弁されていたが、本市の小・中学校の現状を伺う。

〔答弁〕〔学校管理課長〕令和5年12月1日現在、定数上の欠員が1名、加配教員の未配置が1名、合計2名となっている。

〔質問〕欠員の対応策を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕本来担当ではない教員が担任や教科を受け持つなど、校内で調整せざるを得ない状況となっている。講師が見つからない場合は、学校が教員経験者等に声かけを行う場合もある。県学校と連携、協力しながら欠員補充等に対応していく。

〔質問〕教員確保について今後どのように取り組んでいくのか伺う。

〔答弁〕〔教育長〕教員の魅力向上を図るため、働き方改革や本市独自の教育施策を通して、教員にやりがいを感じてもらえるような取り組みを今後も強力に推進していく。

〔質問〕特別支援教育ソフトを市内の小・中学校に試験導入しているとのことだが、今後の活用の方向性について伺う。

〔答弁〕〔教育長〕本市における特別支援教育の充実、きめ細やかな教育の推進に向け、今後の支援ソフトの検証・評価を踏まえて継続導入を検討していく。

その他の質問

◎民生委員・児童委員の担い手不足の問題について

◎福祉バス運行事業について

高齢者福祉・介護保険政策について

村上 由紀



〔質問〕本市の令和5年10月末の高齢化率は37.7%、2040年には推計値で43.6%になると見込まれており、地域包括ケアシステムの体制強化等、早急に取組む必要があると考

える。

〔答弁〕〔長寿課長〕高齢者施策の各会議での情報共有、SOSネットワーク事業実施、また自治会長、民生委員・児童委員へ地域で見守る体制づくりの協力依頼を

している。

〔質問〕高齢者の移動支援にも関わる公共交通施策について伺う。

〔答弁〕〔まちづくり推進課長〕市民バス、乗り合いタクシーは運行継続、まちなか循環便の商業施設内（みやぎ生協）と協議中）乗り入れと停留所の設置、小原地

区での地域ボランティア送迎「おろこのくるま」の令和6年4月からの本運行を目指している。

〔質問〕公共交通の根幹である市民バスについて、満足度が低いという意見があるが、今後の運用について伺う。

〔答弁〕〔市長〕交通弱者と言われる子どもたち、高齢者のためにも、市民バスを守ることは大変重要である。新たな移動支援サービスのさまざまな可能性を見極めながら、政策を推進していく。

〔質問〕認知症対策として地域内の情報共有が不可欠と考えるが、対策を伺う。

〔答弁〕〔長寿課長〕高齢者施策の各会議での情報共有、SOSネットワーク事業実施、また自治会長、民生委員・児童委員へ地域で見守る体制づくりの協力依頼を

している。

〔質問〕高齢者の移動支援にも関わる公共交通施策について伺う。

〔答弁〕〔まちづくり推進課長〕市民バス、乗り合いタクシーは運行継続、まちなか循環便の商業施設内（みやぎ生協）と協議中）乗り入れと停留所の設置、小原地

区での地域ボランティア送迎「おろこのくるま」の令和6年4月からの本運行を目指している。